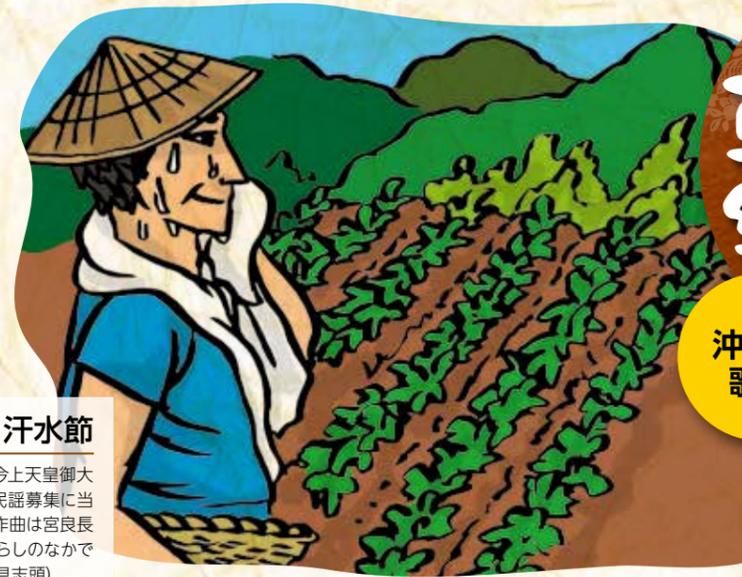


おもしろ草紙

沖縄の歌碑



汗水節
 汗水流ち
 働ちゆる人の
 心うれしさや
 與所の知ゆみ

歌意
 汗水流して働くうれしさ
 働く喜びを他の人が
 わかるものだろうか

汗水節

沖縄を代表する教訓歌。1928年(昭和3年)、今上天皇御大典記念事業の一環として行われた貯蓄奨励民謡募集に当選した初代具志頭郵便局長仲本稔の作詞で作曲は宮良長包によるもの。鹿藩置県後の貧しく苦しい暮らしのなかで勤儉貯蓄を奨励している。(建立地:八重瀬町具志頭)



谷茶前節
 スルル小が
 寄ててんどうへい
 スルル小が
 寄ててんどうへい
 なんちゃむさむさ
 なんちゃむさむさ
 なんちやむさむさ

歌意
 谷茶前の浜にキヒナゴが押し寄せてくるぞ
 谷茶前の浜にキヒナゴが押し寄せてくるぞ
 そつだそつだ 気持ちも高まるよ

谷茶前節

「谷茶前節」は恩納村の谷茶に国王が訪れた際に作られた歌だといわれ、漁村の日常がコミカルに表現されている。明治20年代には舞踊の名人・玉城盛重が曲に踊りを振り付け、今でも盛んに歌い踊られている。(建立地:恩納村谷茶)



恨む比謝橋や
 情ないぬ人の
 わぬ渡さともて
 かけておきやら

歌意
 恨めしい比謝橋はなんて情がない人が
 この私を渡そうと思つて
 架けたのでしょうか

吉屋チル琉歌

吉屋チルは恩納ナベとともに琉歌の二大女流歌人。家が貧困のため、幼くして那覇の遊郭に身売りされ、遊女になって多くの歌を残している。この歌はチルが売られていく途中、比謝橋を渡った時に詠んだものといわれている。(建立地:嘉手納町と読谷村を結ぶ比謝橋のたもと)



なつかしや沖縄
 戦場になどい
 世間お万人と
 涙ながち

歌意
 哀しい沖縄は戦場となり
 多くの人が涙を流した

屋嘉節

「屋嘉節」は終戦直後、金武村(現在の金武町)屋嘉に設けられた米軍の捕虜収容所で、配給された缶詰の空き缶やパラシュートのヒモなどで作った「カンカラ三線」にのせて謡われた。現在伝わる曲は山内盛彬によるものだとされている。(建立地:金武町屋嘉)

コラム 歌碑の楽しみ方いろいろ

最近では歌碑巡りの開催も盛んで、その人気は上昇中。自分なりに鑑賞のポイントを見つけて楽しんでみませんか。



琉歌を味わう 八・八・八・六という独特なリズムをもつ琉歌。30文字の島言葉から意味を学び、歌い継がれたメロディなどを口ずさんでみる。理解が深まることで沖縄の民謡や組踊なども一層楽しむことができる。



作者を知る 琉歌の作者については、吉屋チルや恩納ナベ以外、ほとんどが読者知らず。一方、短歌や俳句、詩などはすべて作者が確かめられる。石川啄木や若山牧水といった本土出身の著名な歌人の歌碑も県内に建立されている。



碑文の書体を楽しむ 刻まれた碑文は著名な書家の手による流麗な文字や、作者直筆の味わいのある文字などもあり、それぞれの書体を楽しむことができる。



垣花 武信さん

生涯学習サークル「四季の会」会長、国立劇場歌碑めぐり講師、県立総合教育センター歌碑めぐり講師などで活躍中の垣花武信さん。沖縄の歌碑に造詣が深く、著書には「沖縄文学碑めぐり」(那覇出版社)がある。平成26年春の叙勲にて瑞宝双光章(教育功労)を受章

歌碑に刻まれた歌が時を超えて思いを届ける

沖縄各地に点在する歌碑。そこには琉歌や短歌、俳句、詩などが刻まれ、味わい豊かに語りかけてきます。地元だけに、ほとんどが琉歌で、恩納ナベや吉屋チルといった時代が生んだ女流歌人の趣ある歌をはじめ、その土地の美しさや、恋心、教訓を詠んだ歌などが碑文として刻まれています。「歌碑を読むと、その背景が浮き彫りになります。なかでも30文字の島言葉に思いを託した琉歌は沖縄独自の文化で格別の味わい。祖先が三線の調べにのせて口ずさんだ琉歌に触れ、思いを感じて欲しい」と話してくれたのは歌碑に関する著書の出版や、歌碑巡り講師としても知られる垣花武信さん。

現在、県内には新旧合わせて150ほどの歌碑があり、それぞれがゆかりのある場所に建立され、静かに佇んでいます。見かけた時には足を止め、地域の人々が後世に残すために刻んだ歌に思いを馳せてみませんか。